

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書の訂正報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第4項

【提出先】 近畿財務局長

【提出日】 平成30年6月29日

【四半期会計期間】 第30期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）

【会社名】 株式会社エムケイシステム

【英訳名】 MKSystem Corporation

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 三宅 登

【本店の所在の場所】 大阪市北区中崎西二丁目4番12号

【電話番号】 06-7222-3388(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室長 筒井 努

【最寄りの連絡場所】 東京都港区虎ノ門四丁目3番1号

【電話番号】 03-6895-3700

【事務連絡者氏名】 取締役経営企画室長 筒井 努

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

1 【四半期報告書の訂正報告書の提出理由】

当社は、過去のライセンス費用の計上に誤りがあり当社の未払金及び売上原価を過小に計上していることが判明し、過去に提出いたしました有価証券報告書等に記載されている連結財務諸表、財務諸表、四半期連結財務諸表及び四半期財務諸表の売上原価等の修正を行うことといたしました。

これらの決算訂正により、当社が平成30年2月9日に提出いたしました第30期第3四半期（自平成29年10月1日至平成29年12月31日）に係る四半期報告書の一部を訂正する必要が生じたので、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出するものです。

なお、訂正後の四半期連結財務諸表については、太陽有限責任監査法人により四半期レビューを受けており、その四半期レビュー報告書を添付しています。

2 【訂正事項】

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移

第2 事業の状況

3 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析

第4 経理の状況

2 監査証明について

1 四半期連結財務諸表等

(1) 四半期連結貸借対照表

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

注記事項

(セグメント情報等)

(1株当たり情報)

3 【訂正箇所】

訂正箇所は___を付して表示しております。なお、訂正箇所が多数に及ぶことから上記の訂正事項については、訂正後のみを記載しています。

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第29期 第3四半期 連結累計期間	第30期 第3四半期 連結累計期間	第29期
会計期間	自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日	自 平成28年4月1日 至 平成29年3月31日
売上高 (千円)	998,202	1,371,869	1,600,787
経常利益 (千円)	152,762	204,180	308,521
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	95,298	128,844	186,342
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	97,803	128,457	198,796
純資産額 (千円)	869,286	1,051,692	974,799
総資産額 (千円)	1,746,089	2,082,571	2,050,674
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	35.54	47.47	69.39
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	35.03		
自己資本比率 (%)	46.9	47.6	44.7

回次	第29期 第3四半期 連結会計期間	第30期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 平成28年10月1日 至 平成28年12月31日	自 平成29年10月1日 至 平成29年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	8.49	14.00

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 第30期第3四半期連結累計期間及び第29期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社における異動は次のとおりです。

(CuBe事業)

当社の連結子会社である株式会社ビジネスネットコーポレーションと株式会社ビジネスネットアシストは、平成30年1月1日付で株式会社ビジネスネットコーポレーションを存続会社として吸収合併いたしました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種施策の効果により企業収益は改善しており、雇用環境・設備投資の改善も続き、緩やかな回復基調が続いております。一方、米国における政策の動向及び中国を始めとするアジア新興国の経済の先行き等に留意が必要な状況であります。

国内の情報サービス業界では、クラウドコンピューティングに代表されるサービス化の流れが一層加速する中、政府が推進する「働き方改革」に伴う効率的な働き方や多様な働き方に対応するため、それらを実現するための業務システムや、人的資源を管理する人事関連システムへの投資意欲が高まっております。また、AI（人工知能）やRPA（ロボティックプロセスオートメーション。Robotic Process Automationの略）といった最新のテクノロジーの活用も進んでおります。

このような環境のもと、当社グループは、平成28年10月に連結子会社化した株式会社ビジネスネットコーポレーションとの協業の上、新サービスの投入や開発を進め業容拡大に向けた取り組みを行っております。

その結果、当第3四半期連結累計期間における業績は売上高1,371,869千円（前年同四半期比37.4%増）、売上総利益823,856千円（前年同四半期比41.2%増）、営業利益204,845千円（前年同四半期比34.1%増）、経常利益204,180千円（前年同四半期比33.7%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益128,844千円（前年同四半期比35.2%増）となりました。

各セグメントの業績は、次のとおりであります。

（社労夢事業）

社労夢事業の主要市場である社会保険労務士市場におきましては、政府による行政手続のオンライン利用促進、マイナンバー制度への対応等により、業務システムを新規に導入する事務所が増加する傾向があると共に、既に利用しているシステムを電子申請機能を備えたクラウドサービスに移行する事務所が増加する傾向にあります。また、社労夢事業にて新たに開拓している一般法人市場においても、「働き方改革」に伴い人事総務部門の業務効率化を推進する目的で行政手続をオンライン化する企業が増加しております。

このような中、社労夢事業では、各種法令改正への対応を進める等、社労夢システムの機能強化及び利便性を高めるとともに、導入促進の割引キャンペーンや、サービス等生産性向上IT導入支援事業の対象事業者として登録を行い補助金の対象となることで、社会保険労務士事務所を中心に社労夢システムの導入を促進いたしました。

この結果、クラウドサービス売上高は、904,917千円（前年同四半期比19.9%増）となりました。これは、主力サービスである「ネットde社労夢」と「社労夢ハウス」のユーザー数が順調に増加したことに伴う月額利用料の積み上がりにより、ASPサービス売上高が767,003千円（前年同四半期比13.7%増）となったこと、及び上期を中心に上述の補助金やキャンペーンを利用した新規導入が進み、システム構築サービス売上高が137,914千円（前年同四半期比72.2%増）となったことによります。

また、システム商品販売売上高は、労務コンプライアンスへの意識の高まりから社会保険労務士の顧問先での勤怠管理電子認証端末の販売等が進み78,437千円（前年同四半期比17.7%増）となり、その他サービス売上高はマイナンバー取得代行サービスの需要が一巡したことにより2,645千円（前年同四半期比77.9%減）となりました。

一方、法人向け営業活動の強化並びにサービス提供体制を拡充したこと等により販売管理費が増加し、前年同四半期に比べコストが増加しました。

以上の結果、社労事業の売上高は986,000千円（前年同四半期比18.3%増）となり、売上総利益666,190千円（前年同四半期比27.2%増）、営業利益は234,984千円（前年同四半期比40.8%増）となりました。

（CuBe事業）

平成29年3月期第3四半期より事業を開始したCuBe事業におきましては、大手企業の人事総務部門等に対し、業務プロセスに着目したコンサルテーションを行い、業務の効率化に資するフロントシステムを、顧客ごとにカスタマイズし開発、提供しております。同事業において提供する「人財CuBe」は、目標管理、人事考課等を中心に人材の採用から、その後の評価、育成、異動等、人事に関わる様々なプロセスにおいて従業員と人事部門を結びシステムです。このほか、従業員の立替経費の精算プロセスをシステム化する「精算CuBe」や、勤怠管理や人事諸届等のプロセスをシステム化する「就業CuBe」、「申請CuBe」等を提供しております。これらフロントシステムは、人事総務部門だけでなく顧客企業全体の業務効率化に資するものであり、政府が推進する「働き方改革」の目的に合うシステムであります。

このような中、CuBe事業では、「精算CuBe」と「人財CuBe」を中心に大型案件、改修案件等を順調に納品すると共に、受注活動・開発を進めました。また、事業開始以来本格的に取り組んでいるクラウドサービスの開発においては、平成29年6月に新サービス「ネットde精算」を、平成29年10月に「年末調整CuBeクラウド」の提供を開始しました。これらに加えて、平成30年4月に「人財CuBeクラウド」を提供開始する予定で、開発を進めております。

「ネットde精算」は、開発を連結子会社である株式会社ビジネスネットコーポレーションが、クラウドサービスのインフラ提供とマーケティングを当社が行いましたが、「年末調整CuBeクラウド」と「人財CuBeクラウド」は、開発はもちろん、クラウドインフラの整備とマーケティングも株式会社ビジネスネットコーポレーションが行っております。

一方、クラウドサービス提供に備えた人材採用や、開発体制の比重のシフト等積極的な投資を行うとともに、グループ内で基幹システムの統合を図り内部管理体制の強化を行ってまいりました。

この結果、CuBe事業の売上高は386,662千円（前年同四半期比134.9%増）、売上総利益157,665千円（前年同四半期比164.8%増）、営業損失は31,886千円（前年同四半期比は8,914千円の営業利益）となりました。なお、CuBe事業の営業損失については、のれん償却額29,146千円を反映しております。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産の残高は、前連結会計年度末と比べ31,897千円増加し、2,082,571千円となりました。

（流動資産）

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は、前連結会計年度末と比べ30,568千円増加し、1,208,752千円となりました。これは主に、繰延税金資産の増加137,984千円、前払費用の増加6,882千円、売掛金の減少122,636千円があったことによるものです。

（固定資産）

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は、前連結会計年度末と比べ1,328千円増加し、873,818千円となりました。これは主に、ソフトウェア仮勘定の増加84,352千円、ソフトウェアの増加54,576千円があった一方で、のれんの減少29,146千円、繰延税金資産の減少137,984千円などがあったことによるものです。

（流動負債）

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は、前連結会計年度末と比べ423,132千円増加し、955,250千円となりました。これは主に、未払金の増加490,327千円、前受金の増加22,765千円、買掛金の減少70,448千円があったことによるものです。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は、前連結会計年度末と比べ468,127千円減少し、75,629千円となりました。これは、長期借入金の減少85,337千円、長期未払金の減少381,536千円などがあったことによるものです。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は、前連結会計年度末と比べ76,892千円増加し、1,051,692千円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上による利益剰余金の増加128,844千円、配当金の支払いによる利益剰余金の減少51,565千円があったことによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	8,000,000
計	8,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成29年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成30年2月9日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	2,714,000	2,714,000	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は100株 であります。
計	2,714,000	2,714,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年10月1日～ 平成29年12月31日	-	2,714,000	-	219,110	-	186,110

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成29年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成29年9月30日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)			
完全議決権株式(その他)	普通株式 2,712,200	27,122	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式であります。なお、単元株式数は100株であります。
単元未満株式	普通株式 1,800		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	2,714,000		
総株主の議決権		27,122	

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式46株が含まれております。

【自己株式等】

平成29年9月30日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社エムケイシステム	大阪市北区中崎西二丁目 4番12号				
計					

(注) 当社は単元未満自己株式46株を保有しております。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成29年10月1日から平成29年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成29年4月1日から平成29年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

なお、金融商品取引法第24条の4の7第4項の規定に基づき、四半期報告書の訂正報告書を提出していますが、訂正後の四半期連結財務諸表について、太陽有限責任監査法人により四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	667,536	667,904
売掛金	433,859	311,222
商品	3,691	5,398
仕掛品	13,948	16,491
貯蔵品	213	1,258
前払費用	20,822	27,704
繰延税金資産	22,874	160,858
その他	15,237	17,914
流動資産合計	1,178,184	1,208,752
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	17,150	15,776
車両運搬具（純額）	8,791	6,595
工具、器具及び備品（純額）	54,084	56,116
リース資産（純額）	7,343	2,451
建設仮勘定		440
有形固定資産合計	87,369	81,380
無形固定資産		
ソフトウェア	76,985	131,561
ソフトウェア仮勘定	102,860	187,213
商標権	309	594
電話加入権	1,218	1,218
のれん	369,188	340,042
無形固定資産合計	550,563	660,630
投資その他の資産		
出資金	70	70
差入保証金	46,960	53,861
保険積立金	75,269	75,269
繰延税金資産	112,159	2,507
その他	98	98
投資その他の資産合計	234,557	131,807
固定資産合計	872,490	873,818
資産合計	2,050,674	2,082,571

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成29年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	102,740	32,292
短期借入金	100,000	100,000
1年内返済予定の長期借入金	116,745	116,339
リース債務	7,357	3,120
未払金	43,479	533,806
未払費用	20,462	27,173
未払法人税等	57,673	55,973
未払消費税等	7,649	1,960
前受金	25,499	48,264
賞与引当金	45,004	25,314
その他	5,506	11,006
流動負債合計	532,118	955,250
固定負債		
長期借入金	160,966	75,629
長期未払金	381,536	—
リース債務	1,254	—
固定負債合計	543,756	75,629
負債合計	1,075,874	1,030,879
純資産の部		
株主資本		
資本金	219,110	219,110
資本剰余金	198,290	198,290
利益剰余金	495,238	572,517
自己株式	79	79
株主資本合計	912,558	989,838
非支配株主持分	62,241	61,853
純資産合計	974,799	1,051,692
負債純資産合計	2,050,674	2,082,571

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
売上高	998,202	1,371,869
売上原価	414,806	548,013
売上総利益	583,396	823,856
販売費及び一般管理費	430,688	619,010
営業利益	152,707	204,845
営業外収益		
受取利息	17	16
受取配当金	1	1
助成金収入	1,500	
商標使用料	250	300
仕入割引	20	875
その他	537	70
営業外収益合計	2,325	1,263
営業外費用		
支払利息	1,151	1,786
弁償金	1,100	
雑損失	17	
その他		140
営業外費用合計	2,270	1,927
経常利益	152,762	204,180
税金等調整前四半期純利益	152,762	204,180
法人税、住民税及び事業税	70,544	100,257
法人税等調整額	15,585	24,534
法人税等合計	54,959	75,723
四半期純利益	97,803	128,457
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失()	2,505	387
親会社株主に帰属する四半期純利益	95,298	128,844

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
四半期純利益	97,803	128,457
四半期包括利益	97,803	128,457
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	95,298	128,844
非支配株主に係る四半期包括利益	2,505	387

【注記事項】

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成していません。

なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれん償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
減価償却費	50,064千円	65,885千円
のれんの償却額	9,715千円	29,146千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年6月23日 定時株主総会	普通株式	39,735	15.00	平成28年3月31日	平成28年6月24日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年6月22日 定時株主総会	普通株式	51,565	19.00	平成29年3月31日	平成29年6月23日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日
後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 平成28年4月1日 至 平成28年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	社労夢事業	CuBe事業	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高					
外部顧客への売上高	833,584	164,618	998,202		998,202
セグメント間の内部売上高又は 振替高					
計	833,584	164,618	998,202		998,202
セグメント利益	<u>166,906</u>	8,914	<u>175,821</u>	23,113	<u>152,707</u>

(注) セグメント利益の調整額 23,113千円は、主に報告セグメントに配分していない全社費用であります。
全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない管理部門に係る費用であります。

当第3四半期連結累計期間(自 平成29年4月1日 至 平成29年12月31日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	社労夢事業	CuBe事業	合計	調整額 (注)	四半期連結 損益計算書 計上額
売上高					
外部顧客への売上高	985,506	386,363	1,371,869		1,371,869
セグメント間の内部売上高又は 振替高	494	299	793	793	
計	986,000	386,662	1,372,662	793	1,371,869
セグメント利益又は損失()	<u>234,984</u>	31,886	<u>203,097</u>	1,747	<u>204,845</u>

(注) セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去額であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自平成28年4月1日 至平成28年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純利益金額	35円54銭	47円47銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	95,298	128,844
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益金額(千円)	95,298	128,844
普通株式の期中平均株式数(株)	2,681,236	2,713,954
(2) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額	35円03銭	
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益調整額(千円)		
普通株式増加数(株)	39,445	
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり 四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前 連結会計年度末から重要な変動があったものの概要		

(注) 当第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年 6月29日

株式会社エムケイシステム
取締役会 御中

太陽有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 森 内 茂 之 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 宮 内 威 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社エムケイシステムの平成29年4月1日から平成30年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成29年10月1日から平成29年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成29年4月1日から平成29年12月31日まで）に係る訂正後の四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社エムケイシステム及び連結子会社の平成29年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

その他の事項

四半期報告書の訂正報告書の提出理由に記載されているとおり、会社は、四半期連結財務諸表を訂正している。なお、当監査法人は、訂正前の四半期連結財務諸表に対して平成30年2月5日に四半期レビュー報告書を提出した。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2 . XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。